

「ふっふっ……
俺のち●ぽどうよ
悪くないだる腫ちゃん？」

びく

「くっ……ん
な……んで……こん……な……んぐっ!!」

「いやアイツ
しばらく帰ってこないじゃん?
んだから体もてあましてるん
じゃねえかなと思ってね(笑)」

「な……っ
ふ……ぶぎけな……い……あッ……んっ!!」

「二か月ぶりくらいのち●ぽか?
すっかりま●こで味わいな」

「や……め……ふっん!!
あッ……んっ!や……や……め……」

びく



「ふっ…ふっ…ツッ
わりい…俺もうイクわ…」

「…ツッ!」

「なか臆内に全部射精してやるからな
ちゃんと孕めよ腫…ツッ!」

「や…ま…待つてツッ!
だ…ださ…ひう…やッあッ!!」

「ぐおおツッ!
種汁上がってきたツ!!
イクぞツイクぞ腫ツ!
俺のガキ仕込んでやるツ!!」

「ひやッあッ…やッ
いや…いやあああッ!!」

「孕めツッ!孕め孕めええええツ!!」



「ぐッ…おお…お…種付け…ッ」



「ひらびん!!」

「や…ああ…あ…」

「ふふ…はあふ…♡」

「んだよ無理矢理種付けされて

イったのか瞳ちゃん

やっぱ相当溜まってたんだろ? (笑)」

「ち…ちがッ

イって…なん…て…

ひあッ!んッんッ!!」

「一回じゃ物足りねえだろ? もっとイかしてやるよ」

「や…やめ…ひぐッ!」

「あッ♡あッあッ♡」

「タ…キ君た…す…ひああッ!!」

「へへッ俺の女にしてやるからな瞳♡」



「数時間後」

「オラツ射精すぞツ!!
イきま●ご種付けしてやるツ!!」

「ひあッ! やッあッ♡
やらッやらあああッ!!」

「おお…ッ
孕めッ孕め腫ッ!!
オレのガキ孕めえええッ!!」

「ひゃらッ! やらああッイぐッ♡
イぐッ!」



びく♡

ぞく♡

ぞく♡

びく♡

びく♡

びく♡

びく♡

んく







